

平成三〇年度入学試験問題（後期日程）

小論文

人文社会学部 国際法政学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、設問は二問ある。問一、問二に各一枚ずつ解答用紙を使用して解答すること。
- 四、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 五、解答時間は、一二〇分である。
- 六、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

## 問題

以下は、『ニューズウィーク日本版』（二〇一五年一月三日号）において、「誤解される国連、その幻想と限界」と題された記事です。この文章を読んで、問一と問二に答えなさい。

問一 文章中にある二代目国連事務総長ダグ・ハマーショルドの、「国連は人類を天国に連れて行くためではなく、地獄から救うためにつくられた」という言葉の含意は何か。国連に関するもので、この文章では言及されていない他の事例を挙げながら、四〇〇字以上、六〇〇字以内で説明しなさい。

問二 世界政府が実現可能かどうかについて、あなた自身の考えを七〇〇字以上、一〇〇〇字以内で論じなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

『ニューズウィーク日本版』、CCCメディアハウス、二〇一五年一月三日発行、二四～二九ページ、一部改変

平成三〇年度入学試験問題（後期日程）

小論文

人文社会学部 国際法政学科

出題の意図

この小論文試験の出題意図は、受験生が社会科学系の学問を学ぶ上で、必要な能力をどの程度持っているかを見ることにある。

問一は、国連の限界性をテーマとした出題文を読ませながら、日頃から国際社会の諸問題に関心をもっているかについて問う問題となっている。本学科のアドミッション・ポリシーである、①人間社会や社会科学への深い関心の有無、を判断することを目的としている。

問二では、本文の内容を踏まえながら、世界政府の実現可能性について、自分自身で深く考えて説得力を持った論理を展開することを求めている。本学科のアドミッション・ポリシーである、②柔軟かつ総合的な思考力と、日頃から国際社会の諸問題に対して、③主体的に学んでいるかどうか、を問う出題となっている。